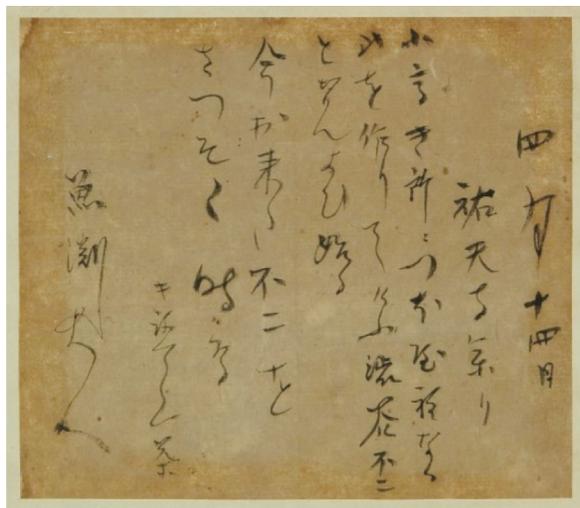


## 館蔵資料紹介 早稲田の本棚から

## 一茶句稿

文化 14 年 (1817) 自筆 紙本墨書1軸(本紙 15.5 × 17.7cm) 請求記号: 文庫 31 - D119(雲英文庫)



四月十四日

祐天寺参り

小高き所ニつぼ屋程なる

山を作りてけふ渋谷不二

となんよび始る

今出来た不二を

さつそく時鳥

貴評可被下候 一茶

魚淵大人

(翻刻にあたり濁点を補った)

本資料は、「我と来て遊べや親のない雀」、「瘦蛙まけるな一茶是に有」等の作者として知られる信濃国柏原宿<sup>かしわばらじゅく</sup>（現長野県上水内郡信濃町）出身の俳諧師、小林一茶（1763-1827）の句稿である。前書に「四月十四日 祐天寺参り…」とあり、一茶の句日記のひとつ『七番日記』\*の文化14年（1817）4月10日の条に「十晴 祐天寺及碑文谷詣三人」、同月16日には「今出[来]た不二をさつそく時鳥」との句が記されていることから、同年の4月14日に書かれたものと思われる。富士信仰の盛んな当時、富士山を模して江戸のあちこちに造られた富士塚を句に詠み、信濃国長沼の医者で門人の佐藤魚淵<sup>なぶち</sup>（1755-1834）に評を請うたものである。諸国行脚や江戸での寄食生活の末、文化9年（1812）に郷里に戻った一茶は、魚淵ら北信濃の門人たちと親密に交流する。前述の祐天寺参りを含む文化13年（1816）9月から翌年6月にわたる江戸行では、旧知の人々を訪ねる一方、魚淵の撰集『迹祭』<sup>あとまつり</sup>（文化13年刊）の出版・頒布に尽力した。文化13年12月の魚淵宛の書簡でも江戸での様子を記すとともに、句評を請うている。

\*引用は『七番日記』（岩波書店，2003）による。

（特別資料室 松尾亜子）

「館蔵資料紹介 早稲田の本棚から」では、早稲田大学図書館が所蔵する資料をご紹介します。

「古典籍総合データベース」について <http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/>

当館では、調査・研究に資することを目的として、館蔵の古典籍の書誌と画像を収載した「古典籍総合データベース」を2005年12月に公開し、継続してデータの拡充に努めている。上記で紹介した『一茶句稿』も3月末に登録されたばかりである。ぜひ、お試しいただきたい。

## ○最近の動き

2014年4月 書誌画面を改善、英文ページおよび「関連情報」を追加

参考：「館蔵資料電子化の進捗状況について」（『早稲田大学図書館年報2013』）

2015年1月 データベース案内を改訂（閲覧方法、画像の利用手続き等）

2015年春 雲英文庫の公開を記念し、「俳諧」特集ページを追加予定

